

鹿児島県 南薩圏域 総合水産基盤整備事業計画

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

- ・ 南薩圏域は、鹿児島県薩摩半島の南西部（宇治群島を含む）の地域で、関係市町村は南さつま市と枕崎市の2市で、関係漁協は加世田市漁業協同組合（令和2年度末組合員数145名、年間水揚高128トン、1億円）、笠沙町漁業協同組合（令和2年度末組合員数206名、年間水揚高1,025トン、3億円）、令和2年に合併した鹿児島県漁業協同組合（令和2年度末組合員数836名、年間水揚高2,199トン、10億円）、坊泊漁業協同組合（令和2年度末組合員数109名、年間水揚高248トン、3.4億円）、枕崎市漁業協同組合（令和2年度末組合員数669名、年間水揚高98,408トン、146億円）の5漁協である。

※旧南さつま漁業協同組合が鹿児島県漁業協同組合に合併。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

- ・ 主な漁業は、船曳網、定置網、ごち網、刺網、一本釣りで、一部では、マグロ等の魚類養殖業も営まれている。また、枕崎では、遠洋カツオ一本釣り漁業や中型まき網漁業などが営まれている。
- ・ 主な魚種は、定置網で漁獲されるアジ・サバ等の浮魚類や船曳網で漁獲されるシラス、ごち網で漁獲されるタイ類、刺網で漁獲されるキビナゴ、一本釣・曳縄で漁獲される首折れサバ、ヨコワ等である。加工品では、枕崎市が全国一の生産量を誇る鰹節が生産されているほか、南さつま市で、シラスを原料とするチリメン加工工業業が営まれている。
- ・ 資源量については、他圏域と同様に、漁獲対象種の資源状態が低迷しており、漁業生産量が減少している。

③ 水産物の流通・加工の状況

- ・ 流通拠点の枕崎漁港は、圏域内で漁獲される水産物が水揚されるほか、圏域外のまき網漁船によるアジ・サバ等の浮魚類や鰹節の原料となるカツオが水揚され、国内でも有数の水産物流通拠点となっている。

- ・ 圏域内の市場は、枕崎漁港地内に、枕崎市漁協が開設・運営する地方卸売市場のほか、他の漁協が開設運営する産地市場として、南さつま市内に3カ所（小湊（万世）漁港、片浦漁港、野間池漁港）ある。

④ 養殖業の状況

- ・ 坊泊漁港や野間池漁港でクロマグロの養殖が行われており、水揚げ後は民間加工場で裁割、包装後、国内へ出荷される。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

- ・ 圏域の漁業を取り巻く環境は、資源状況の悪化、魚価の低迷、燃油資材等の高騰により、非常に厳しくなっており、組合員数も年々減少し、高齢化の傾向にある。

⑥ 水産業の発展のための取組

- ・ マダイ、ヒラメ等の放流事業や藻場保全活動による沿岸資源の維持・増大に取り組んでいるほか、直売所として加世田市漁協の「こんぴら市場」やレストランと直販所を備えた枕崎市の「枕崎おさかなセンター」がある。また、ブランド化（枕崎ぶえんカツオ、双剣サバ、加世田ちりめんなど）による水産物の付加価値向上や6次産業化に取り組んでいる。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

- ・ 生産・流通・加工・販売の経済活動を支える水産基盤整備については、水産資源の維持増大を図るための水産環境整備を計画的に進めるとともに、産地市場の衛生管理対策、生産コストの縮減を図るための施設整備、及び、激甚化する台風等による浸水被害や南海トラフ地震等、切迫する巨大地震に対する漁港漁村の防災・減災対策が課題である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

- ・ 今後、10年程度で圏域内の漁港施設について、統合や廃止、同一漁港内での機能再編の予定は無い。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由； 水産物を集約する産地市場を有する流通拠点港（枕崎漁港）でセリ等を行い、消費地や加工場へ出荷するタイプ。
---------	-------	--------------------------------------------------------------

② 圏域範囲	枕崎市および南さつま市	設定理由； 流通拠点港（枕崎漁港）へ水産物の集約が及ぶ範囲
③ 流通拠点漁港	枕崎漁港 （特定第3種）	設定理由； ・当該漁港は、圏域内の陸揚げ量の約9割を集約しており、現在、高度衛生管理型荷さばき所や耐震強化岸壁を有している。 ・流通拠点漁港として、BCPを運用すると共に、地震・津波発生時の漁港利用者の避難対策が確立されている。 ・漁獲物等に関する情報処理の迅速化を図るため、市場へのICT等の導入を検討する。
④ 生産拠点漁港	片浦漁港 （第2種）	設定理由； 当該漁港は、衛生管理型の荷さばき所を有しており、一定の陸揚げ量を有している。 今後は、生産拠点漁港として、地震・津波発生時の漁港利用者の避難対策を検討する。
⑤ 輸出拠点漁港	枕崎漁港 （特定第3種）	設定理由； 枕崎漁港は、昔からまき網船の基地港として利用されており、水揚げされるサバ・アジ等を韓国や東南アジア等へ輸出している。 また、「ぶえん鯉」等の生食用の加工品の海外需要が高まっているため、今後も水産物の輸出の促進を図る。

(令和元年)

圏域の属地陸揚げ量(トン)	91,892	圏域の登録漁船隻数(隻)	520
圏域の総漁港数	9	圏域内での輸取出扱量(トン)	7,949

圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	0
当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	南薩
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	クロマグロ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）(トン)	170
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	392

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・ 流通拠点漁港である枕崎漁港においては、高度衛生管理型荷さばき所（平成 28 年 3 月）、-9.0m 岸壁（令和 3 年）が完成し、海外まき網漁船から陸揚げされる冷凍カツオの選別等に利用されているが、青物等を取り扱う岸壁背後の荷さばき所の衛生管理対策が不十分である。このため、荷さばき所等の衛生管理対策を行うことで、海外への輸出促進を図る。
- ・ 生産拠点漁港である片浦漁港においては、衛生管理型荷さばき所を有していることから、水産物の安心安全な品質を確保し、安定的な水産物の供給を図る。
- ・ 荒天時における静穏な海域が確保されていないことから、防波堤等の外郭施設を整備し、安心・安全な漁業活動を確保し、安定的な水産物の供給を図る。
- ・ 漁獲物等に関する情報処理の迅速化を図るため、市場への ICT 等の導入に取り組む。

②養殖生産拠点の形成

- ・ 坊泊漁港や野間池漁港でクロマグロの養殖が行われている。
- ・ 今後、生産拡大等で漁場環境の改善や流通施設等の整備が必要な場合は積極的な支援を検討していく。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・ 当該圏域は、薩摩半島西部から南部に位置し、周辺海域は好漁場が形成されるが、近年の長期的な海水温上昇などの漁場環境の変化が見られるとともに、漁獲対象種の資源状態は低迷しており、漁業生産量が減少している。

- ・ 今後、さらなる漁場環境の変化が予測されるなど、漁業生産量が減少する恐れがあることから、水産資源の回復及び増大を図るため、魚礁設置等による漁場の整備や漁場環境の保全に取り組んでいく。
- ・ 魚礁設置後に漁獲調査や蛸集状況調査等によるモニタリングを実施し、結果を検討して得られた知見を積極的に次の漁場整備に活かし、整備効果の向上を図る。

②災害リスクへの対応力強化

- ・ 当該圏域の流通拠点である枕崎漁港においては、生産量日本一である鯉節の加工工場をはじめ、水産業が地域の基幹産業となっていることから、南海トラフ地震等切迫する大規模地震による被害の早期回復が必要であり、耐震強化岸壁や漁港BCPを運用し大規模地震等に備えることとする。
- ・ 生産拠点漁港では近年の台風の激甚化により、漁船の沈没被害等が発生しているため、荒天時における漁船の安全対策のための、外郭施設の整備を進める。
- ・ 施設の老朽化が進み、補修・更新時期を迎える施設が多くなることから、「事後保全」から「予防保全」型への転換を図り、新技術の積極的な活用により、これまで以上にライフサイクルコストの縮減と予算の平準化を図る。

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

- ・ 漁村地域では、高齢化・過疎化が進行し、浜の活力の低下が懸念されることから、地域が一体となったブルー・ツーリズムの推進体制づくりを促進し、農林水産業や観光産業との連携強化による多様なネットワークやメニュー作りを行う。
- ・ また、都市住民等のニーズを把握し、漁村地域が持つ魅力について情報発信するとともに、漁業体験型の教育旅行の誘致や漁家での宿泊体験などの取組を促進する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・ 高齢化・過疎化により漁業就業者数は減少傾向であることから、漁業就業希望者への就業情報や漁業情報の発信提供、各種研修の実施等により、漁業就業に意欲的な人材を育成し、将来の漁業生産の担い手を確保する。
- ・ また、漁業就業者等の労働環境の改善、利便性の向上を図る施設整備を行う。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
枕崎	輸出促進	流通基盤	枕崎	特3	枕崎
野間池	流通機能強化	機能増進	野間池	2	枕崎

・枕崎漁港

外港南側、外港北側、内港の既設荷さばき所の衛生管理対策が不十分であるため、荷さばき所の衛生管理対策（L3 対応）や市場の ICT 化を行うことで、海外輸出促進を図る。

・野間池漁港

外郭施設を整備し安心・安全な漁業活動と安定的な水産物の供給を図る。

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
さつま	資源管理	水産環境

・さつま海域

魚礁設置等により、水産資源の回復及び増大を図る。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
片浦	安心・安全	機能強化	片浦	2	枕崎
小湊(万世)	安心・安全	機能強化	小湊(万世)	2	枕崎
枕崎	予防保全	機能保全	枕崎	特3	枕崎
片浦	予防保全	機能保全	片浦	2	枕崎
小湊(万世)	予防保全	機能保全	小湊(万世)	2	枕崎
野間池	予防保全	機能保全	野間池	2	枕崎
秋目	予防保全	機能保全	秋目	2	枕崎
久志	予防保全	機能保全	久志	2	枕崎

坊泊	予防保全	機能保全	坊泊	4	枕崎
黒瀬	予防保全	機能保全	黒瀬	1	枕崎

・片浦漁港外1漁港

機能診断結果を基に外郭施設や係留施設の耐震・耐津波・耐浪化の整備を進める。

・枕崎漁港外7漁港

持続可能なインフラ管理の推進として機能保全計画に基づき漁港施設の機能回復を図る。

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
全域	地域活性化	ブルー・ツーリズムPR推進事業	全域		枕崎

・圏域漁港全域

農林水業や観光産業との連携強化による多様なネットワークやメニュー作りを推進。

都市住民等のニーズを把握し、漁村地域が持つ魅力について情報発信すると共に、漁業体験型の教育旅行の誘致や漁家での宿泊体験などの取組を促進する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
全域		かごんま漁師育成推進	全域		枕崎
全域		漁業生産の担い手育成確保事業	全域		枕崎

・圏域漁港全域

漁業就業希望者への就業情報や漁業情報の発信提供、各種研修の実施等により、漁業就業に意欲的な人材を育成し、将来の漁業生産の担い手を確保する。

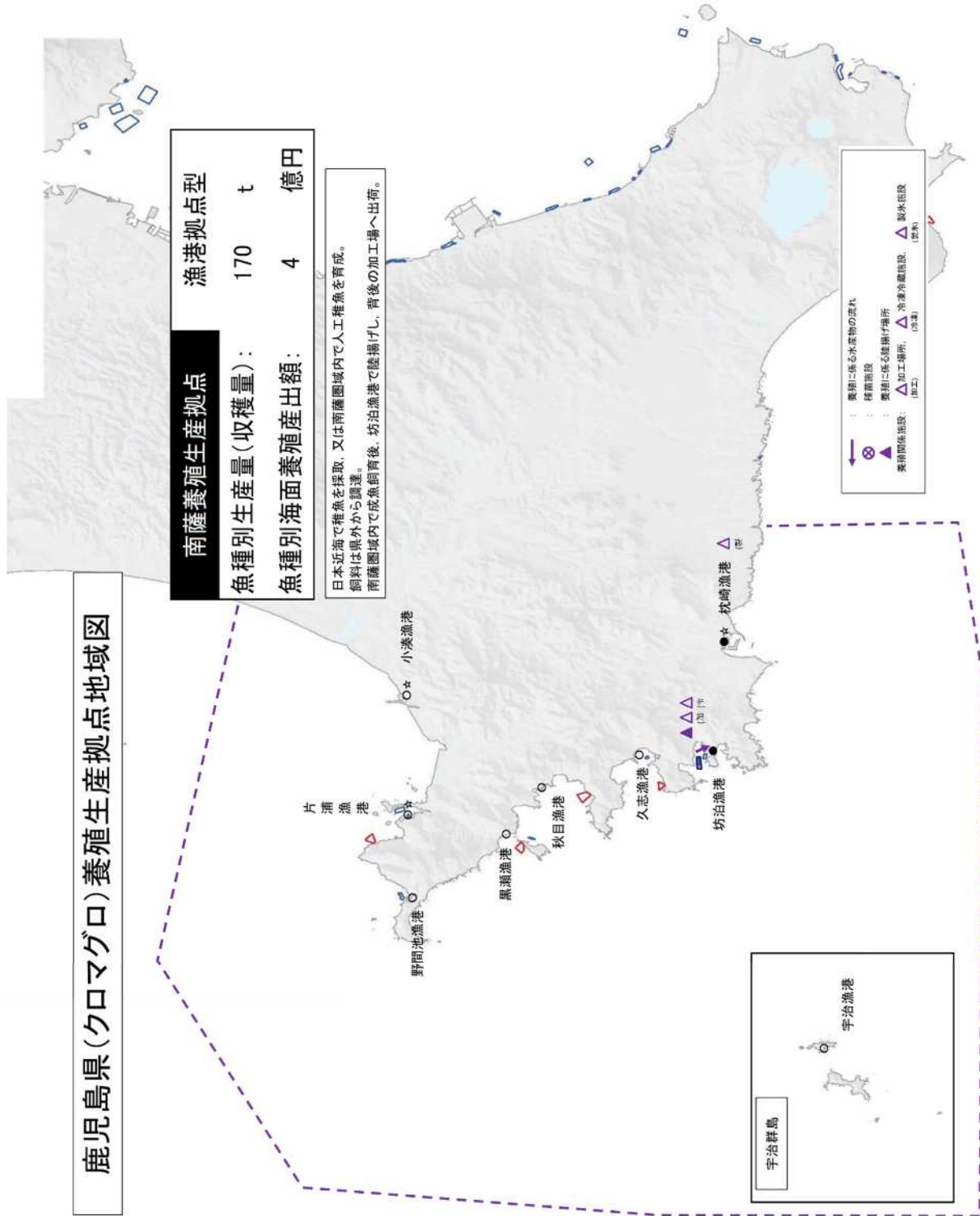
4. 環境への配慮事項

- ・当圏域は、薩摩半島西部にある日本三大砂丘のひとつ吹上浜に位置し、砂浜や岩礁などの変化に富んだ地形を有し、また、坊・野間のリアス式海岸など自然に恵まれた風光明媚な景観を形成している。
- ・漁港漁場の計画にあたっては、景観・環境に対する影響、既存の藻場や海底地形、潮流などに大きな影響を与えないよう配慮する。
- ・漁港漁場における各構造物の工事においては、周辺海域の自然環境や水生生物の生息環境に配慮し、必要に応じて自然環境と調和した構造物、工法等を採用する。

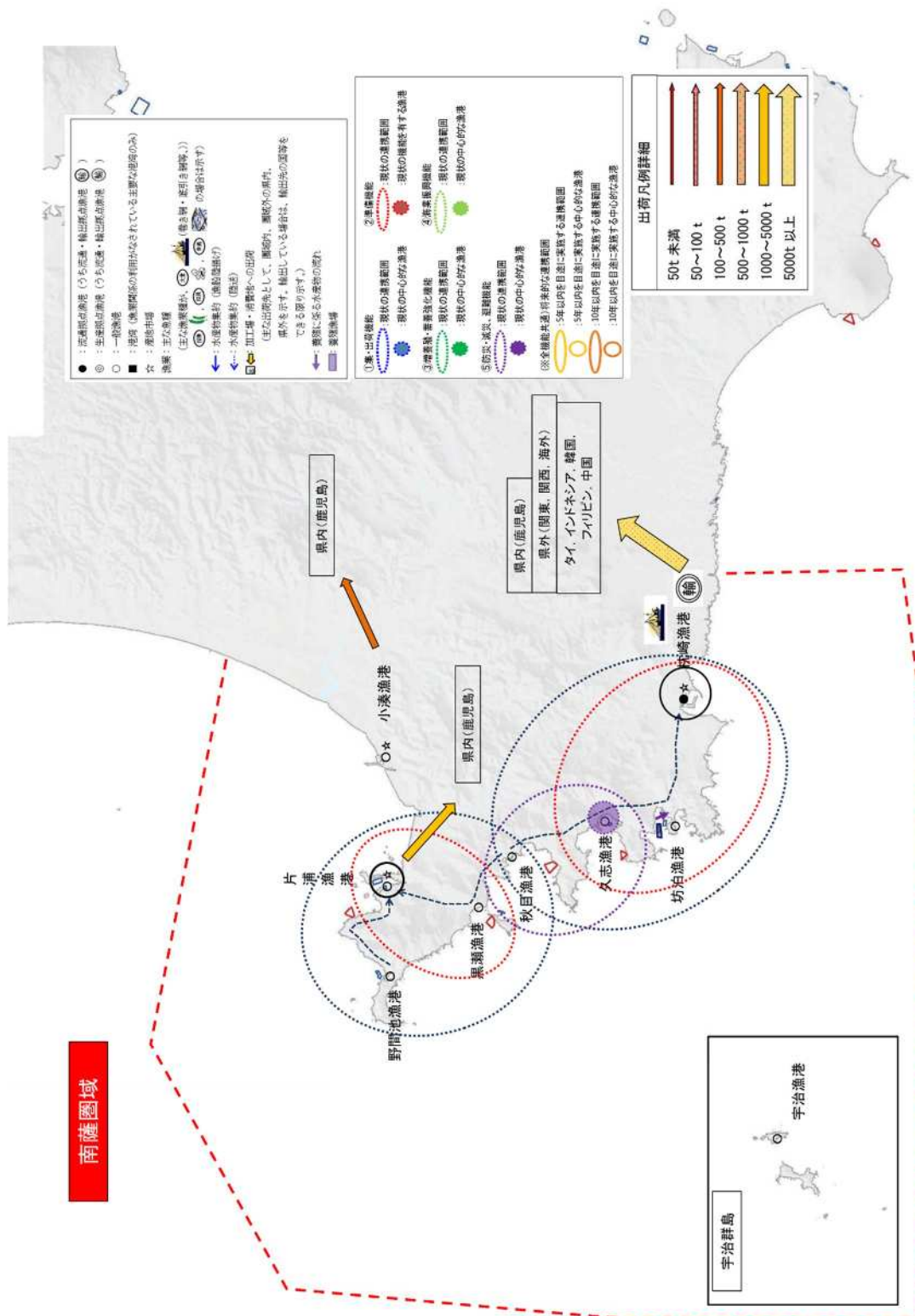
5. 水産物流通圏域図

別添、「鹿児島県 水産物流通圏域図」

6. 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図



7. 漁港ごとの役割や機能分担及び漁港間での連携の状況を示す資料



8. その他参考となる資料